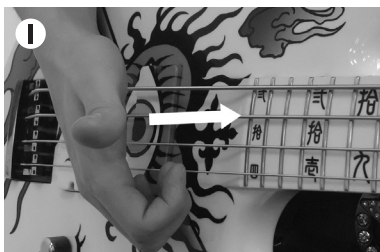


注意点1

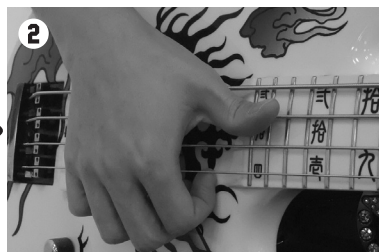


弦を切るぐらいの勢いで引っぱり上げよう!

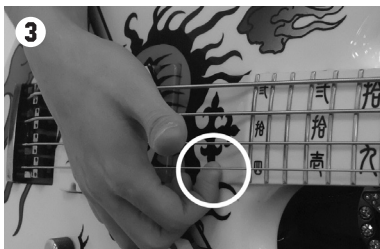
ここでのテーマは、サムピングとブルのコンビネーションだ。サムピングはP.36対応の解説で説明したので、ここではブルの解説をしよう。ブルは人差指(中指を使う人もいる)を弦の下に潜り込ませて弦を引っぱり上げて、アタック音を出すテクニックだ。引っぱり上げる時は、弦を切るぐらいの勢いをつけるとういだろう。スラップは、通常サムピング(ルート音)とブル(オクターブ上のルート音)のコンビネーションを使って、“ンベツ、ンベツ……”というパーカッシブなサウンドを出す(写真①~④)。したがって、親指が弦を叩いた時に、人差指を弦の下に潜り込ませておくとうい。ブルのタイミングが遅れるとグルーヴ感が悪くなるので、人差指を素早く動かすように心掛けよう。



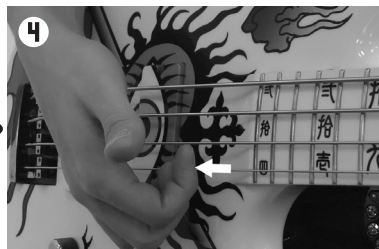
スラップのコンビネーション。まず親指を振り上げて……



サムピングを弾く。この時、ブルの準備もしておく。



親指を弦から離しながら、人差指を1弦に引っ掛けて……



アタック感のあるサウンドを生み出そう!

注意点2

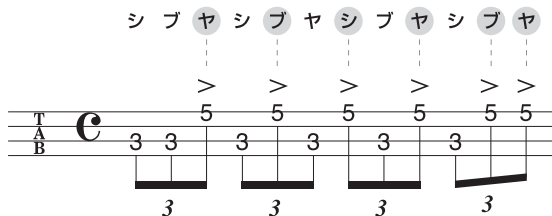


3文字の言葉を歌ってリズムに正確に乗るべし!

松フレーズは、サムピングとブルのコンビネーションをさらに強化するためのエクササイズだ。3連符フレーズなので、基本的に“シブヤ”などの3文字の言葉を当てはめてリズムを取る【註】が、“シブヤ”のどの部分にブルが入るのかを理解しておくことが大切だ(図1)。このフレーズでは、各小節とも1拍目は“ヤ”、2拍目は“ブ”、3拍目は“シとヤ”、4拍目は“ブとヤ”の位置にブルが入る。実際に演奏する時には、4分音符で足踏みを入れながら、“シブヤ、シブヤ〜”と歌いながら演奏してみたい。自分の声とベース・ブレイがピッタリ合うように弾き込むべし!ここでは、サムピングとブルのコンビネーションと3連符に対応できるリズム感を養おう。

図1 ブルの入る位置

・松フレーズ1小節目



3文字の言葉を当てはめて、その言葉のどこにブルが入るのか理解しておこう。

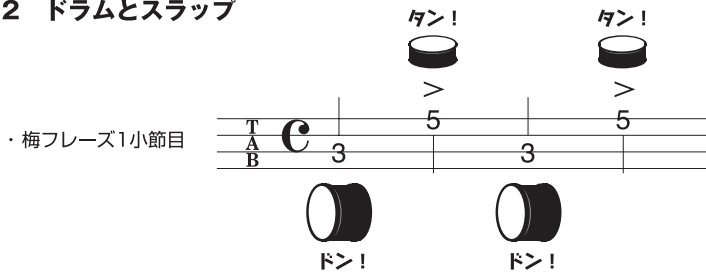
~コラム9~

将軍の戯れ言

スラップが生み出されたきっかけは、ある日、バンドのリハーサルにドラマーが来られなかった時に、ラリー・グラハムがサムピングでバス・ドラム、ブルでスネアを表現したことだと言われている。この話の真偽はわからないが、このエピソードを実践することがスラップ上達の近道になる。つまり、ベーシストはスラップを演奏する時には、ドラマーの役割を兼ねるという意識を持つとういのだ(図2)。このことを頭に入れて、サムピングとブルのコンビネーションを練習すれば、自然とグルーヴ感を高めることができるだろう。

サムピングがバス・ドラムで、ブルがスネア!? スラップとドラムの密接な関係

図2 ドラムとスラップ



サムピングをバス・ドラム、ブルをスネアとして捉えて演奏してみよう。

【言葉を当てはめてリズムを取る】音符に言葉を当てはめてリズムを取る方法は、非常に有効な手段だ。休符にも言葉を当てはめてみると、リズムを一定に取ることができるので、ぜひ実践してみよう。